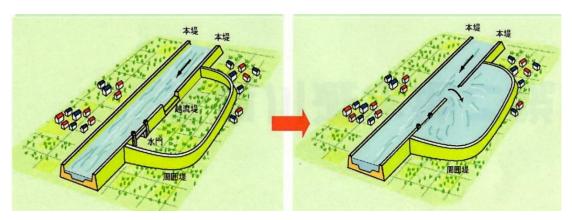
横越に「遊水地」は必要ですか

横越「遊水地」問題学習会

私たち横越「遊水地」問題学習会は、昨年末、横越に計画されている遊水地問題を考えるために美濃市 民有志で結成しました。地球温暖化により水害も頻発かつ激しさを増しています。長良川流域に関わるみん なが協力して水害対策に当たる必要があると考えていますし、遊水地を活用する治水は必要だと考えていま す。しかし、横越に計画されている「遊水地」は川の中に造られるもので、自然への負荷も大きく、想定外 の洪水が発生すると、むしろ遊水地があることにより、危険性が増す可能性があると考えています。

遊水地とはどのようなものでしょうか



遊水地とは、図のように「大雨の時、川の堤防の一部を低くして水をあふれさせ、遊水地にためることで、 下流の水位を一時的に下げる仕組み」(国土交通省ホームページより)です。

国は長良川の水害対策として台風や豪雨時に岐阜市の水位を下げる目的で、美濃市横越と関市池尻に遊水地を作る計画ですが、横越の計画は川の中に造るもので本来の遊水地ではありません。

なぜ横越が選ばれたのでしょうか

国土交通省は、遊水地計画の場所として、岐阜市溝口・保戸島南、関市下白金・小瀬・池尻、そして横越の6か所を候補地としました。

遊水地計画により恩恵を受けるのは岐阜市です。国土交通省は「岐阜市が汗をかかなければ」ということで溝口を有力な候補地としていましたが、岐阜市が難色を示し溝口案は頓挫しました。

そこで第一候補地に上がったのが横越です。2015年5月19日に行われた岐阜県河川課と木曾川上流河川 事務所の協議の場で、「美濃市は河川公園の計画があるから全面的に協力」すると報告がされ、地元自治体の 協力が得られる横越が第一候補として浮上しました。

6 候補地のうち河道内に計画されたのは横越だけです。他の候補地は川の外に水を流す本来の遊水地です。

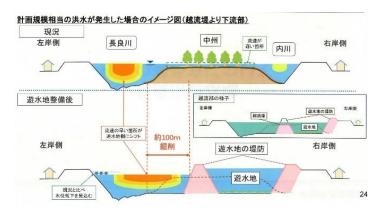


左岸から見た工事予定地—中州はすべて掘削される一



横越側にある支流の内川―支流は堤防(周囲堤)になる一

河道内に遊水地を造ることの問題点



国土交通省は、「平水位以上の河道掘削であり、環境面への影響は軽減できる」としています。現在の中州の上に構造物を造るような説明です。

しかし実際の計画では、左の断面図のように、左岸側の100mを残して右岸の横越側まですべて掘削する計画です。本流の半分と中州すべて、そして支流の内川まで掘削し、中州全体がえぐり取られた上で巨大な調整地を造る計画です。

---図面は木曾川上流河川事務所作成---

世界農業遺産「長良川の鮎」への影響

長良川中上流域は世界農業遺産に認定されています。申請理由では、本流にはダムが無く、絶滅危惧種なども生息する清流で伝統的な鮎漁を守っていることをアピールして認定されました。

下渡橋の下流部では友釣り専用区や瀬張り網漁なども行われていますが、流れをよくするために本流を左 岸側 100mのみ残して掘削する計画です。友釣りを知っている方はお分かりですが、清らかな瀬を掘削すれ ば友釣りはできなくなります。世界農業遺産の認定要件にも抵触するような大工事の計画です。

横越に特別天然記念物のオオサンショウウオが生息しています



板取川合流点から保戸島南までの20km区間には26種類の絶滅危惧種、準絶滅危惧種が生息しています。その中には、特別天然記念物のオオサンショウウオ、天然記念物のネコギギも生息しています。

私たちの会の問い合わせに対して河川事務所は「横越にオオサンショウウオが生息している」ことを認めています。

オオサンショウウオは、3千万年前から現在とほぼ同じ姿で生息して

いる「生きた化石」と言われており、岐阜県から西日本にかけた限られた場所に生息しています。

三重県や奈良県は保護の指針を作成し、県を挙げて保護しています。また、瀬戸市は、市が市民の協力を 得て生息調査や生息地の清掃活動などに取り組んでいます。オオサンショウウオは、本美濃紙と共に美濃市 が誇る宝として守らなければならないのです。

水害が増す恐れがあります

今回の計画は、平成16年の水害を基にした計画ですが、河川事務所は「平成16年を超える水害は20年後に見直す」としています。いつ伊勢湾台風クラスの水害が発生してもおかしくない状況ですから、本計画は水防法第14条「想定し得る最大規模の降雨」による水害を想定して再検討すべきです。

左岸側が越水する危険性

本ページー番上の完成予想図の下の断面を見てください。遊水地下流部では、遊水地堤防よりも庁舎側の 左岸堤防の方が低くなっています。道塚堤防を補強しても、左岸側堤防が低くなるのですから、想定以上の 雨が降れば遊水地ができることで左岸側が越水する可能性が高くなります。第二室戸台風、伊勢湾台風では、 左岸側が大変な被害に遭っていますが、遊水地完成により再被害の可能性があるのではないでしょうか。

右岸の内水氾濫の危険性

右岸側は新たに遊水地の堤防ができるため越水の可能性は低くなりますが、今まで以上に内水問題が出てきます。現在、横越内を流れる川は長良川支流の内川にも合流していますが、遊水地計画では内川は埋め立てられて堤防になりますので内川への流入はできなくなると思います。横越内の配水は大丈夫でしょうか。

横越「遊水地」問題学習会 送表 野津 牧 元名古屋短期大学教授

事務局 美濃市藍川7-12 堀 茂 TEL:080-3650-2095

2021.6.4 岐阜県要請行動 横越遊水地関係資料(木曾川上流河川事務所作成)

横越「遊水地」問題学習会

1. 令和2年6月ふれあいセミナー資料 P.14 「横越遊水地予定地の現状写真」



*右側が上流 白く見えるところが河原で瀬は友釣り専用区、さらに右側では伝統的な落ち鮎の瀬張り網漁を行う漁場。この場所は世界農業遺産に登録されている美濃市の中でも重要な漁場の一つである。

2. 令和元年9月30日 長良川遊水地における環境について P.5

横越地区、池尻地区の環境影響への配慮

≥ 国土交通省

- ○横越地区では遊水地内の掘削や築堤により、副流路で確認されている魚類のアジメドジョウやアカザ、イトモロコ、底生動物のコオイムシの生息場は改変されるが、これらの種は周辺の本川でも確認されており、施工に際し可能な限り調査・移植を行うことで、影響を軽減することが可能である。
- ○長良川中流域においてはネコギギ、オオサンショウウオが確認されているが、平水位以上の河道掘削であるため、生息環境である本川の水際部の直接改変は行われない。
- ○工事により発生する土砂や水の濁りが影響を与えないよう、工事実施時には配慮する。

<配慮事項>

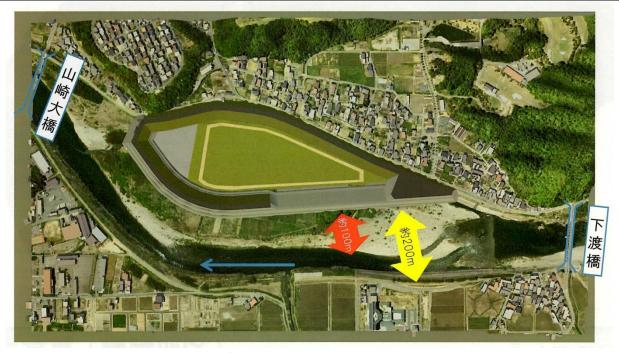




事業箇所及び周辺含めた環境調査を継続し、重要種の分布を確認するとともに、生息環境の保全と配慮に努めていく。

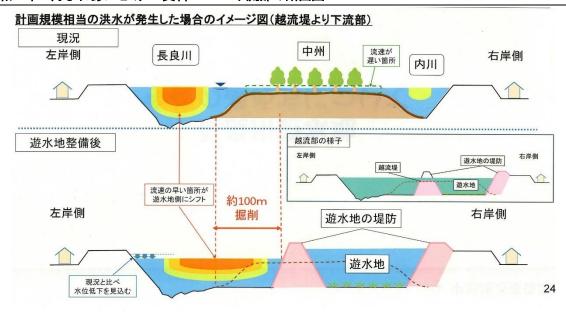
*国土交通省が実施した環境調査では、板取川から保戸島南間の20km間の流域全体に環境省レッドデータブックで絶滅危惧種・準絶滅危惧種に指定されている26種類の植生物が確認されている。特別天然記念物のオオサンショウウオ、天然記念物のネコギギも含まれる。

- *木曾川上流河川事務所は、横越にオオサンショウウオが生息していることを認めた(令和3年4月23日)。
- *文章の2項目「平水位以上の河川掘削であるため、生息環境である川の水際部の直接改変は行われない」と記してある。
- 3. 令和2年6月ふれあいセミナー資料 P.16「遊水地完成予想図」



*写真上側の横越地区と中州の間に現在は支流の内川がある。普段の流れは本流よりも緩やかであり、緩やかな流れを好む水中生物は生息しやすい環境と思われる。計画では周囲提となり内川は消滅する。

4. 令和2年6月ふれあいセミナー資料 P.24 下流部の断面図



- *下図を見ると②の説明とは違い、**左岸側の 100mを残して中州全体と内川を掘削する計画**であることがわかる。中州の生物にとっては壊滅的な影響が出る。本流の掘削により、瀬が消滅して**鮎漁に深刻な影響が出る**。 *水害の危険性1 現状の堤防は左岸側が右岸側よりやや高い。遊水地が完成すると下流部では左岸側が遊水地堤防より低くなると共に川幅が 500mから 200mに減少する。従来、豪雨の際は川幅全体で川の水を受け止
- *水害の危険性2 右岸側は内川に流れる川があるが、内川が無くなるため内水問題が深刻になる。

めていたが、遊水地が満水になれば左岸側が越水する可能性が高まる可能性がある。

*本計画は平成 16 年水害クラスに対応した計画である。河川事務所は、想定を超える水害対応は 20 年後に検討するとしている。水防法第 14 条に基づき「想定し得る最大規模の降雨」を想定して再検討すべきである。